

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【下落合小・中・中等教育学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	主体的に取り組み、自ら獲得した力としての知識・技能を高める授業を展開する。そのため、自分の考えを整理・表現するための思考ツール等を積極的に活用していきたい。また、様々な体験活動を通して、リアルな危険から知識・技能を身につけられるよう工夫する。	
思考・判断・表現	ICTの活用や「じ・し・ゃ・く」を意識した授業展開を、発達段階に応じながら全学年においてさらに推進する。各教科における探求的な学びを設定したり、総合的な学習の時間を充実させたりするなど、児童が主体的に取り組む活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を高める。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 3年生の国語で、どれが主語・述語なのか、その関係を読み取ることが難しい。6年生の理科で、顕微鏡・簡易検流計・方位磁針などの用具の正しい使い方を理解していない。</p> <p><指導上の課題> 実際、理科実験道具に触れる機会が少ない。</p>	<p>物語文や説明文の中で主語と述語の関係我问う機会を増やし、理解を深める。また、作文や感想文等、書く機会を意図的に設け、文事校正を定着させる。さらに、日々の読書活動の推進を図る。【定期テスト】(振り返り、作文) 実物に触れ、扱う体験を増やすことで、理科への関心と理解につなげる。【定期テスト】(ワークシート)</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 知識を取り入れたつも、得た情報に対して自分の考えを持ち、それを伝えていくことが難しい児童がいる。</p> <p><指導上の課題> 表現する方法が単調になりがちとなってしまう。</p>	<p>オンラインやムーブメントなどのICTを活用する機会を増やすことで、写真やグラフ等をとりこみながら手軽に発表物を作り、「表現することへの抵抗感を少なくしていく。各授業で「じ・し・ゃ・く」を意識した取組を増やしていく。[R6年度さいたま市学習状況調査]授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていると思えますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上]</p>

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	<p>国語における物語文や説明文において、主語と述語の関係について考えさせるとともに、各教科においても、根拠となる図やグラフから読み取ったことなどについて、文の構成等を意識させながら理解を深めた。また、書く機会を意図的に設け、書くことへの抵抗感を減らした。学校図書館の利用状況も増え、読書活動も指針した。</p> <p>理科については、実験を教師の示範だけで行わず、必ず各グループによる活動とすることで、使用する道具に全員が触れ、使い方も上手になり、知識として獲得できるようになってきた。</p>
思考・判断・表現	B	<p>各教科において「オンライン+」などのICTを活用し、クラウド上で児童同士の意見を交流させる活動とおして、自分の考えをもち、伝える授業を行った。また、互いの成果物に対する評価をする活動とおしては、自分の成果物をさらによくしようという意欲が高まるなどの成果が見られた。「じ・し・ゃ・く」を意識した授業展開を行い、児童が主体的に取り組む機会を増やした。</p> <p>さいたま市学習状況調査の質問項目で、相手の考えを聞いて自分の考えを伝えているかという質問の肯定的な回答の割合は、目標の90%以上を2つの学年が達成できた。</p>

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>国語・算数ともに、平均正答率82%以上で埼玉県や全国より高い正答率となっている。特に算数では、口を用いた立式や直方体見取り図の理解において、91%以上の正答率となっている。</p> <p>国語の「情報の扱い方に関する事項」が全国より若干低く、メモにある情報と情報に関連つけた図の意味を理解しきれなかったことが分かる。</p>	
思考・判断・表現	<p>国語・算数ともに、埼玉県や全国より高い平均正答率となっている。</p> <p>国語「物語を読んで心に残ったところとその理由をまとめて書く」問題の無回答10%程と高く、自分の考えを記述することが苦手な児童が多いと考えられる。</p> <p>算数において正答率40%未満の「理由を記述する問題」があり、解答類型から正答条件の半分しか理由が書けていない事が分かる。無回答10%以上となる問題があり、出題の趣旨から図形やグラフを読み取った後に、立式したり言葉で記述したりするなど表現できない児童がいたと考えられる。</p>	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>どの学年、どの教科の知識・技能も、さいたま市平均正答率より高く、良好な結果であった。さいたま市との比較では、6年の算数が市よりも高かった。偏差値においては、6年生がすべての教科の知識・技能が昨年度より上がっており、理科については最も上昇している。</p>	
思考・判断・表現	<p>どの学年、どの教科の思考・判断・表現も、さいたま市平均正答率より高く、良好な結果であった。偏差値においては、6年生がすべての教科の思考・判断・表現が昨年度より上がっている一方で、3・4・5年生の算数について課題が見られた。</p>	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	<p>学習単元後の振り返り文や、1行日記や生活作文など、日頃から簡単な文章を書くことで、主語や述語の理解が高まってきた。</p> <p>理科の実験道具の扱い方を丁寧に説明し、また道具を扱う時間を十分設けることで、道具を正確に扱える児童が増えた。</p>	<p>授業において思考ツールを活用したり、図やグラフの読み取りを多く行うことで、「関連付け」活動に慣れていける。</p>
思考・判断・表現	B	<p>「じ・し・ゃ・く」を意識し毎授業にICTを活用した授業を行った。また、新たに導入された「オンライン+」も積極的に活用しながら、児童が考えを主体的に表現できる場(ツール)を設定した。表現内容を広げたり深めたりしながら、自分の思いを表現することが課題である。</p>	<p>各教科等の取り組みに加え、読書活動や道徳による情操教育を推進し、自分の思いを広げて言語表現活動ができるように指導する。</p>

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)